

「土は宝」土の有効活用～過疎代行業業の思い出～  
**渡邊 一夫 氏 × 小林 政弘 氏**  
元県土木部長 (当時・県水戸土木事務所長)  
元県土木部技監兼検査指導課長 (当時・水戸土木事務所道路整備第二課長)



私はインフラ整備に当たっては、何となく安全が第一であると考えて事業を進めてきました。将来に渡って安全が確保できるように工夫して整備をしなければなりません。もうひとつ心掛けたことは、公共工事で発生した土を邪魔物としないことです。しっかりと頭を使えば有効活用ができるのです。今回お話しするのは過疎代行業業で行った町道についてです。

城里町(当時は常北町)が施行することになりました。主要地方道水戸茂木線の上古内から北に向かって延長約4kmの立派な町道が整備されています。これはエクストラレスの関連で、日本自動車研究所(城里テストセンター)がこの地に移転しました。この施設へのアクセスのために整備されたのがこの町道です。かなりの難工事が予想され、早急に供用する必要があったので過疎代行業業として県水戸土木事務所

**現場発生土を盛土材に活用**

本路線は、市町村に代わり過疎代行道路として県が整備を進めていました。また、この道路は日本自動車工業会テストコース移転工の進入路を兼ねており、平成17年のオープンまでの開通が必須となっていました。私が業務を引き継いだ時点では、工事も全て発注され供用開始に向けて順調に進んでいました。しかし5月末ころ、突然防げたためアンカーを

切土法面の崩壊が確認されたので、路床の掘削により地下水の流出と法面崩壊を招き、掘削工事を進める結果が求められました。この結果、法面崩壊を回避し、軟弱地山の法面を安定勾配に決定して崩壊を防ぐ工法に決定しました。必死の覚悟で用地交渉や土事の発注手続きを進め、併せて残土置き場の撤出停止の苦情が上がり、地元との調整は困難を極めました。調整も難し、古内茶の葉に被害のおそれがあるなど住民から撤出中止の苦情が上がり、地元との調整は困難を極めました。調整も難し、古内茶の葉に被害のおそれがあるなど住民から撤出中止の苦情が上がり、地元との調整は困難を極めました。

この町道はその後、地域に欠かせない道路として何の問題もなく活躍しております。この道路を通るたびに「あの時に決断して良かった」と胸をなでおぼします。当時の担当者や工事関係者の皆さんには大変苦勞をかけましたが、苦勞の甲斐はあったのではないのでしょうか。あの時工事に携わった皆さんには、心より感謝しております。



いはらきの公共事業  
歴史をたどり、後世に残す  
県水戸土木事務所編④

県住宅供給公社が水戸ニュータウンの整備を進めておりましたので、交差して土を仮置きしていただくことができました。工事は順調に進みましたが、一難去ってまた一難。道路沿いに立派な茶畑があったので、粉塵が茶畑に売りに物にならないと苦情が寄せられたので、担当課長と工事を請け負った建設業者さんが一軒一軒頭を下げて歩いて回り、なんとか理解していただきました。この仮置きした土は水戸ニュータウンへのアクセスとなる那珂川新橋に活用され、水戸北スマートインターチェンジの盛土工事にも使われました。まさに「土は宝」です。

**レンタル単価の値上げ検討**  
参加140人が一層の発展誓う



日本建設機械レンタル協会茨城支部茨城協議会(岡添雅治代表)は17日、つくば市のホテルグランド東葉で2023年賃料交渉会を開催した。正会員や賛助会員約140人が出席し、会のおお一層の発展を誓い、今後の発展を期すことが必要と叫びかけた。

その後、東京支部賛助部長である岡添雅治代表は「日本の伊達屋一層の発展を期すことが必要と叫びかけた。その後、東京支部賛助部長である岡添雅治代表は「日本の伊達屋一層の発展を期すことが必要と叫びかけた。」

**新年度予算案**  
一般会計に特別会計を含む総額は969億3000万円

「あつち」の2023年度当初予算案が明らかになった。一般会計は27億8050万円、特別会計は2400万円、繰越金として3000万円を計上。長井地区にお

**ごみ処理施設に1.3億**  
交流センターには空調設備更新

ごみ処理施設は、1億3478万8000円、尿処理施設の修繕費に7300万7000円、埋立処分場の修繕費に7001万3000円を計上している。不燃ごみ処理施設や埋立処分場では、設備機器の修繕やオーバホール、部品の更新などを行う。また、尿処理施設では、建物の外壁や屋根の防水工事なども実施するとのこと。

**高井小学校を増築**  
取手市は高井小学校の校舎増築事業に今年度から着手する

取手市は高井小学校の校舎増築事業に今年度から着手する。当初予算案で設計費2400万円を計上。順調な進捗を遂げ、今年度から着手する。

**投資的経費32%の大幅増**  
土浦市 5.5億で清掃センター設備更新

土浦市(安藤眞理子市長)は2023年度当初予算案の概要を発表した。一般会計は552億8000万円、前年度比5%増。投資的経費は46億6271万円、前年度比32%の大幅増となった。主要事業では清掃センター維持管理事業で29年総額5億5440万円の継続費を設定。計画的な設備更新を行うため、用地買収費など2億3369万0000円を盛り込んだ。

**事業化へ検討調査**  
IC周辺 土浦市 5.5億で清掃センター設備更新

文化財調査調査の委託料を措置。23年度に設計事業者を選定し、24年度から25年度で設計を完了する予定。中小学校長寿命化改良事業では1億99万2000円を配分。二戸小学校(校舎、屋内運動場)、土浦第二中学校(武道場)、都和中学校(校舎、屋内運動場)の設計費などに充てる。また、22年度繰り越し分として東小学校(屋内運動場)の改良工事(2億4549万6000円)、都和南小学校(校舎)及び屋内運動場(1期工)長寿命化改良工事(1億99万2000円)の測量設計

**浴室改修へ設計着手**  
築40年経過し老朽化

西南地方広域市町村圏事務組合は、総和消防署(古河市下野521-2)の浴室改修工事に向けた設計をスタートさせた。新年度内に設計を完了し、その後工事に向けた準備を進める予定。2023年度当初予算では、設計業務への予算額1300万円を計上している。

**県立図書館など157施設**  
命名権者3月17日まで募集

県は資産の有効活用による歳入の確保を図るため、県立図書館や千波歩道橋など157施設に命名権者を募集する。募集期間は3月17日まで。応募があった施設を選定委員会が提案内容(名称、ネーミングライツ料など)を審査して決定する。